

第6学年〇組 国語科学習指導案

指導者 福岡市〇〇小学校 〇〇 〇〇

1 単元名

表現を味わい、豊かに想像しよう

「やまなし」「イーハトーヴの夢」

こんな子どもたちだから

- 本学級の子どもたちは、本を読むことが好きである。1学期の「森へ」の学習で、一人の筆者にこだわって読んだり、作品を比べて読んだりするおもしろさに気付きつつある。 (意欲・関心)
- 1学期最初の物語文「カレーライス」では、題名の働きについて考え、「森へ」では、まとめの段落と前の段落をつないで読む読み方や比喻表現を読む読み方を学習してきた。 (学び方)
- 読み方を意識した聴き合い活動を行い、友達の考えとの違いに気付いたり、そこから自分の考えに付加・修正して新たな考えを見出したりすることが少しずつできるようになってきている。 (認識)

2 指導観

こんな教材を使って

○単元のねらい

本単元は、『表現を味わい、豊かに想像しよう』という単元名のもと、『やまなし』を読み、さらに『イーハトーヴの夢』と比べて読むことで、『やまなし』で作者が伝えたかったことをより確かに行うこと』をねらいとしている。

○学習指導要領への意義

「やまなし」は前書き、五月の幻灯、十二月の幻灯、後書きという文章構成で書かれた作品である。この文章構成に込められた工夫や二枚の幻灯に出てくるかわせみややまなしが意味しているものを考えたり、題名が「やまなし」となっている意味を考えたりすることは、作者が伝えたかったことをとらえる上で大変重要であると考え。また、「イーハトーヴの夢」に書かれている宮沢賢治の言動からその考え方や生き方をとらえ、再度「やまなし」で作者が伝えたかったことを見直すことは、必要な読み物を選択して読める子どもを育てる上で価値高いと考える。

○本校テーマへの意義

「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を比べて読むことで、「やまなし」で身に付けた読み方を再度意識付けしたり、読み取った作者の伝えたかったことを深めたりすることにつながる。このことは、読み方の習得・活用を通して考える力を身に付け、確かに考え、豊かに学ぶ子どもを育てる上で意義深いと考える。

こんな手立てで (方法)

○新しい事実と出会う段階では

宮沢賢治の作品を紹介し、彼の作品に興味をもたせる。また「やまなし」という題名から既習学習を想起させ、題名の働きを意識させる活動を通して、作品に対するイメージをふくらませる。

宮沢 賢治

○課題を明確にする段階では

題名と冒頭から「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で、作者は何を伝えたいのだろう。」という読みのめあてをつくる。

○さぐる・まとめる段階では

読みのめあての答えを探し、「五月と十二月の幻灯にはどんな様子が書かれているのか。かわせみとやまなしはかきの兄弟にとってどんな意味があるのか。なぜ題名が『やまなし』なのか」という3つの視点に沿って読み確かめる。

○考えを確かにする段階では

「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の考え方や生き方をとらえる。「やまなし」で読み取ったこととつながるところはないか考え、聴き合い活動を通して「やまなし」で作者が伝えたかったことをより確かなものにする。

最後に、作者が伝えたかったこととこれからの自分の成長をつないで考えを深めていけるようにしたい。

目指す子どもの姿

- ◎ 「やまなし」や宮沢賢治について書かれた「イーハトーヴの夢」と出会うことで、関連して様々なジャンルの本を読むことのおもしろさや読書のおもしろさに気付こうとする。 (意欲・関心)
- ◎ 文章構成の工夫を読む読み方や題名の働きを読む読み方などを通して「やまなし」で作者が伝えたかったことを読み取り、それについて聴き合うことができる。 (学び方)
- ◎ 「やまなし」と宮沢賢治について書かれた「イーハトーヴの夢」を比べて読み、聴き合い活動を通して「やまなし」で作者が伝えたかったことをより確かにし、自分の考えを深めることができる。 (認識)

本校国語科部テーマ
読み方の習得・活用を通して考える力を育てる国語科学習

前単元

「森へ」
読書の世界を深め、筆者の見方・考え方をとらえよう

活動

教科書教材「森へ」と続きの部分を読んでその類似点や相違点から「森の中の命のつながり」についての見方・考え方を深める聴き合い

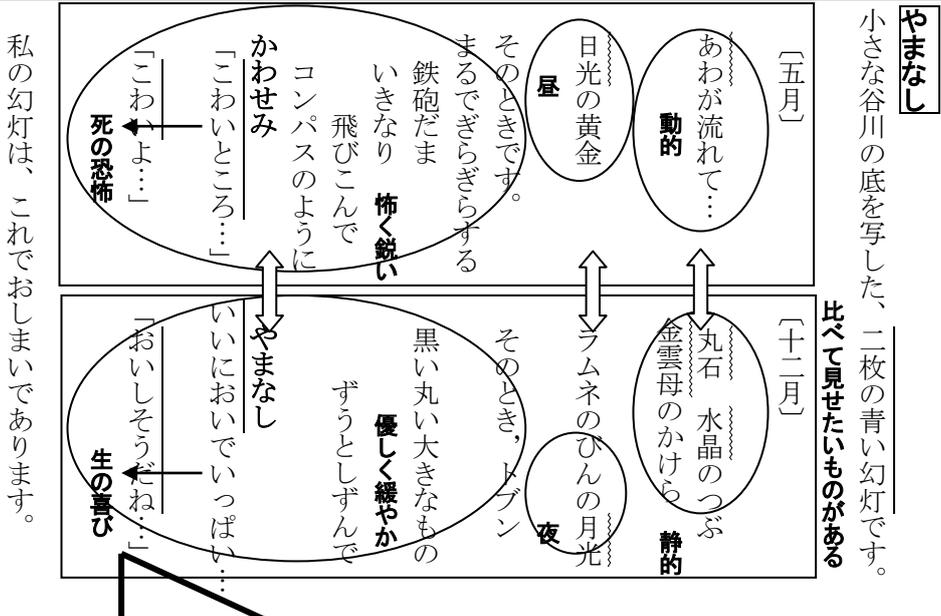
＜宮沢賢治が伝えたかったこと＞
他のものに生きる喜びや楽しみを与えるようなもののすばらしさ、自分自身もそのような存在でありたい、そのように生きたいということ。

＜共通点＞他のものに生きる喜びや楽しみを与えているものに価値を見出している点

○主な聴き合い活動
学習問題「宮沢賢治は生きる喜びを与えるものについてどのように考えているのだろうか。」について「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を読んで共通点を聴き合い、作者が伝えたかったことについての考えを深めている。

○主なポートフォリオ評価
ポートフォリオを使って振り返ることで、これまでの学習で読み取ったことや友達の読み取りのよさに気づき、自分をはじめに読み取った作者が伝えたかったことと比べ、そのことに対する自分の考えを深めている。

○身に付けたい読み方 情景を読む、比喩を読む、題名の働きを読む、文章構成の工夫を読む



次単元

「海の命」「山のいのち」「街のいのち」
命について考えよう
立松和平の世界

○教科書教材「海の命」と「山のいのち」「街のいのち」を読み、その共通点から作者の命に対する見方・考え方を深める聴き合い活動

イーハトーヴの夢

・「なんとかして、農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにできないものか。」
・「そのために、一生をささげた。」
・病気が少しでもよくなると、起き出して村々を歩き回った。
・一人一人に教えてあげる

ボランティアド。

・前の晩、急性肺炎を起こした賢治は、呼吸ができないほど苦しんでいた。なのに、一時間以上もていねいに教えてあげた。

人のために
生きようと思ってる

・人間がみんな人間らしい生き方ができる社会。それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界が賢治の夢だった。

誰もが幸せを感じることに価値を見出していた
※ 題名が「やまなし」になっている理由につながる。

宮沢賢治自身が、生の喜びを与えるものに価値を置いていて、自分もそのような存在でありたいと願っている。

4 指導計画 (計12時間)

段階	主な学習活動と内容	評価規準と子どもの姿 ◇=評価規準 ・=意識	指導上の留意点と評価方法 ○=留意点 ◆=評価方法	配時
<p>新しい事実と出会う</p> <hr/> <p>課題を明確にする</p>	<p>1 題名と冒頭から読みのめあてをつくる。</p> <p>(1) 宮沢賢治についてどのような作品があるのか知る。</p> <p>(2) 題名「やまなし」について自分がイメージしたことを出し合う。</p> <p>(3) 既習学習をもとに、題名にはどんな働きがあったのか振り返る。</p> <p>(4) 冒頭を読み、幻灯が二枚あることをとらえ、その意図を考え、読みのめあてを生み出す。</p>	<p>・宮沢賢治の作品にはどんなものがあるのだろう。</p> <p>・「やまなし」という題名からどんなことが書いてあるのか想像してみよう。</p> <p>・題名にはいろいろな働きがあったね。</p> <p>◇既習学習から題名の働きについて考えている。</p> <p>・幻灯とは何かな。</p> <p>・幻灯が二枚あるとどんなことができるかな。</p> <p>◇題名や冒頭の疑問点から、読みのめあてを生み出している。</p>	<p>○単元に入る前に、宮沢賢治の本を準備する。《支援⑧》</p> <p>◆自己評価カード・考えマップ・発言・ポートフォリオ分析</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>交流活動①</p> <p>●全体</p> <p>・新しい事象に興味・関心をもつ聴き合い活動</p> </div> <p>みのめあてをつくるようにする。《支援④⑥》</p> <p>◆発言・ポートフォリオ分析</p>	1
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><読みのめあて></p> <p>小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で、作者は何を伝えたいのだろう。</p> </div> <p>(1) 前書き、五月の幻灯、十二月の幻灯、後書きという文章構成になっていることをとらえる。</p> <p>(2) 五月の幻灯、十二月の幻灯に共通して出てくるもの、片方にしか出てこないものをとらえる。</p> <p>(3) 五月の幻灯に書かれていること、十二月の幻灯に書かれていることを大まかにとらえ、読みのめあての答えを書く。</p>	<p>◇全文を読み、文章構成をとらえている。</p> <p>・五月にかわせみ、十二月にやまなしが出てくるよ。かにの兄弟はどちらの幻灯にも出てくるね。二枚の幻灯は同じ場所を写しているけど、季節や時間が違うね。</p> <p>◇文章構成や二枚の青い幻灯に描かれているものを大まかにとらえ、読みのめあての答えを書いている。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>交流活動②</p> <p>●全体</p> <p>・相違点をもとに、課題を明らかにするための聴き合い活動</p> </div> <p>いるものをとらえることができるようにする。《支援⑨》</p> <p>◆自己評価カード・発言・ポートフォリオ分析</p> <p>○後で比べやすいように、読みのめあての答えをできるだけ短い言葉で端的に書かせるようにする。《支援④⑥》</p> <p>○答えの根拠になる部分を確認しながら交流していくようにする。《支援①》</p> <p>◆発言・ポートフォリオ分析</p>	2
<p>さぐる・まとめる</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><読みのめあての答えの方向></p> <p>・作者は、小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で、ひっそりとした目立たないところにも生きる喜びがあることを伝えたかった。</p> </div> <p>や詳しく読む必要があるところが出てきたね。</p> <p>◇一人一人の読み取りの曖昧なところに気付き、読み確かめの視点をもつことができている。</p> <p>①五月と十二月の幻灯にはどんな様子が書かれているのか。</p> <p>②かわせみとやまなしはかにの兄弟にとってどんな意味があるのか。</p> <p>③なぜ題名が「やまなし」なのか。</p>	<p>◇文章構成や二枚の青い幻灯に描かれているものを大まかにとらえ、読みのめあての答えを書いている。</p> <p>◇全文を読み、文章構成をとらえている。</p> <p>・五月にかわせみ、十二月にやまなしが出てくるよ。かにの兄弟はどちらの幻灯にも出てくるね。二枚の幻灯は同じ場所を写しているけど、季節や時間が違うね。</p> <p>◇文章構成や二枚の青い幻灯に描かれているものを大まかにとらえ、読みのめあての答えを書いている。</p> <p>◇一人一人の読み取りの曖昧なところに気付き、読み確かめの視点をもつことができている。</p>	<p>○五月の幻灯に着目したものの、十二月の幻灯に着目したものの、二枚を比べながらまとめたものなど、読みのめあての答えをあらかじめ分類しておき、自分がどれに当てはまるのか意識させる。</p> <p>《支援①④》</p> <p>◆発言・ポートフォリオ分析</p>	1

4 3つの視点に沿って読み確かめる。

(1) 読み確かめの視点①について話し合う。

- ・自分の読み取りを書き込む。
- ・それぞれの読み取りを聴き合う。

五月は昼、日光の明るさがあるが、暗いところもある。動きがある情景。

十二月は夜、暗いところがあるが、月光の明るさもある。静かな情景。

(2) 読み確かめの視点②・③について話し合う。

- ・自分の読み取りを書き込む。
- ・それぞれの読み取りを聴き合う。

かわせみは、死の恐怖を与える存在、やまなしは、生の楽しみや喜びを与える存在。題名を「やまなし」にしたのは、生の楽しみや喜びに作者が価値を見出しているから。

5 「やまなし」で使った読み方と読みのまとめをする。

(1) 板書をもとに、「やまなし」で使った読み方と読みのまとめを書きまとめる。

6 自分がとらえた作者が伝えたかったことを確かにするために「イーハトーヴの夢」を読む。

(1) 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の言動をまとめる。

7 聴き合い活動を通して、「やまなし」で読み取った宮沢賢治が伝えたかったことを確かにする。

学習問題：宮沢賢治は生きる喜びを与えるものについてどのように考えているのだろうか。

◇情景を読む読み方や比喻を読む読み方を使って、二枚の幻灯の様子をとらえている。

・五月の幻灯は日光や黄金のあみなどの言葉が使っているから、日差しが差していて明るい感じがするね。

・「鋼」が金属だし、暗く、重たい感じがするね。

◇文章構成の工夫を読む読み方や題名の働きを読む読み方を使って、二枚の青い幻灯で作者が伝えたかったことを読み取っている。

・かわせみがかにの兄弟にとって怖い存在なのは、初めは見ただけでもない未知のものであったからなんだね。

・魚がかわせみに食べられたことを知ったところから、死の世界を知って、かにの兄弟は怖くなったんだね。

・かわせみと対照的に考えると、やまなしはどんな存在なのか分かりそうだ。

◇「やまなし」で使った読み方とその読み方を使ったことで分かったことをまとめている。

◇興味をもって「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の言動から彼の考え方や生き方をとらえている。

・「イーハトーヴの夢」にも宮沢賢治のいろいろな作品が出てくるね。

・知らない作品もあるから読んでみたいな。

・宮沢賢治は人のために生きようとしたんだね。

交流活動③

- 異質グループ、全体
- ・不十分な点を補い、考えを整理する聴き合い活動

○前時に書き込みをさせ、それをもとにして指名の仕方や問い返しを工夫する。

《支援①》

◆自己評価カード・発言・ポートフォリオ分析

○板書を工夫し、五月の幻灯と十二月の幻灯を比べながら考えることができるようにする。

《支援9》

○初めにかわせみがかにの兄弟にとってどんな存在なのか考えさせた後に、やまなしの意味を対比的にとらえさせていくようにする。

《支援④》

◆ポートフォリオ分析

○途中で自分が書き込んだものの見直しをさせ、自分の読み取りを練り直す時間を取るようにする。

《支援④》

◆ポートフォリオ分析

○ポートフォリオを使って、読み取ったことと読み方を振り返ることができるようにする。

《支援③④》

◆ポートフォリオ分析

○宮沢賢治の言動をつないで、彼の考え方や生き方をとらえ、「やまなし」で作者が伝えたかったことと比べてフリップにまとめている。

《支援④⑦》

◆考えマップ・フリップ分析

○事前に質問事項を把握したり、手引き等を紹介したりして、活発に聴き合い活動ができるようにする。

《支援⑤⑧》

2

2
本
時

1

1

1

- (1) 「イーハトーヴの夢」に書かれている宮沢賢治の言動から考え方や生き方をとらえる。
 - (2) 「やまなし」で宮沢賢治が伝えたかったことと彼の考え方や生き方を比べる。
 - (3) 「やまなし」で宮沢賢治が伝えたかったことを再度見直す。
- 8 単元全体を振り返る。
- (1) ポートフォリオを振り返る。
 - (2) 自分の考えがどのように変容したのか書きまとめる。

◇聴き合い活動を通して、宮沢賢治の言動から分かる考え方や生き方から題名の働きを読む読み方を使って考えた作者が伝えたかったことを再検討している。

- ・生きる喜びを与えるものに価値を見出すだけでなく、宮沢賢治自身もそのような存在でありたいと考えていたんだね。

◇学習の流れ図やこれまでのポートフォリオを使って、自分の学びを振り返っている。

- ・宮沢賢治に考え方や生き方はこれからの自分の成長に役立ちそうだ。

○板書を整理し、作者の考え方や生き方と「やまなし」で伝えたかったことをとらえることができるようにする。
《支援⑨》

◆自己評価カード・フリップ・発言・ポートフォリオ分析

交流活動④

- 同質・異質グループ、全体
- ・作者の考え方や生き方から「やまなし」で宮沢賢治が伝えたかったことを深め、再構成するための聴き合い活動

○学習の流れ図やポートフォリオを使って、読みのまとめができるようにする。
《支援④》

◆ポートフォリオ分析

5 本時 平成21年10月19日(月) 第5校時 6年1組教室にて

聴き合い活動を通して、かのにの兄弟にとってのかわせみ・やまなしの意味をとらえ、題名が「やまなし」になっていることとつないで、作者の伝えなかったことを読み確かめる場面 (8/12)

6 本時の目標

- 文章構成の工夫を読む読み方や比喻表現を読む読み方、題名の働きを読む読み方を使って、かのにの兄弟にとってのかわせみ・やまなしの意味や題名が「やまなし」になっているわけを読み取ることができる。(学習指導要領から)
- 作者が伝えなかったことを読み確かめ、自分のこれまでの読み取りを振り返ることができる。(テーマから)

7 本時の授業仮説

聴き合い活動を中心とした交流活動の中で、文章構成の工夫を読む読み方や比喻表現を読む読み方、題名の働きを読む読み方を使って「やまなし」で作者が伝えなかったことを読み確かめ、これまでの自分の読み取りを振り返る評価活動を取り入れていけば、読み方の習得・活用を通して考える力を身につけ、確かに考え、豊かに学ぶ子どもが育つであろう。

8 本時指導の考え方

これまでに子どもたちは、題名と冒頭から「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で、作者は何を伝えたいのだろう。」という読みのめあてをつくっている。そして、読みのめあてに対する答えの話し合いから、読み確かめの視点として、次の3点を見出している。

- ① 五月と十二月の幻灯にはどんな様子が書かれているのか。
- ② かわせみとやまなしはかのにの兄弟にとってどんな意味があるのか。
- ③ なぜ題名が「やまなし」なのか。

一つめの視点「五月と十二月の幻灯にはどんな様子が書かれているのか。」については、情景を読む読み方を使って、五月の幻灯、十二月の幻灯に表現されている世界をとらえてきた。

本時は、かのにの兄弟にとってのかわせみ・やまなしの意味をとらえ、題名が「やまなし」になっていることとつないで、作者の伝えなかったことを読み確かめることをねらいとしている。

まず、かのにの兄弟にとってのかわせみの意味を話し合う。かわせみが飛び込んできたときのかのにの様子から意味をとらえている児童、かわせみの様子を表した比喻表現から意味をとらえている児童の二つの読み取りを聴き合う活動を仕組み、かわせみはかのにの兄弟にとって「死の恐怖を与えるもの」だと方向付けていく。

次に、かのにの兄弟にとってのやまなしの意味について考える。「やまなし」の文章全体が対比的に書かれていることを確認した後、かわせみが「死の恐怖を与えるもの」だとすると、やまなしはどう表現できるか問いかけ、前時に書き込みをしたものを見直し、書き加える時間をとるようにする。

そして、見直して書き込んだものを発表し、かわせみが「死の恐怖を与えるもの」だったのに対し、やまなしは「生の喜びを与えるもの」であるととらえていくようにする。かのにの兄弟にとってのかわせみの意味を考えたときと同じように、やまなしが落ちてきたときのかのにの様子、やまなしの様子を表した比喻表現から根拠の叙述を探していく。

最後に、題名が「やまなし」になっているわけについて考えさせる。十二月を後に書いていること、題名が「やまなし」であることから作者は「生の喜びを与えるもの」に思い入れがあることをとらえさせていきたい。本時で読み取ったことは、板書を使って説明させ、まとめていくようにする。

○ 交流活動・評価活動の工夫について

代表児童の読み取りを板書に位置付け、交流活動の際にどこをどう読んだのかをとらえることができるようにする。また、これまでの学習を振り返ったり、自分の読み取りの変容をとらえたりするためにポートフォリオを活用し、自分のはじめの読み取りと新たに付け加わったもの、読み方やそこから分かったことなどを自己評価カードの中でも振り返ることができるようにしたい。

・ 規準に満たない子への支援

聴き合い活動の中では、質問をするポイントや確かめの仕方について個別に指導し、どの子も積極的に聴き合い活動に取り組むことができるようにする。聴き合い活動後は、かのにの兄弟にとってのかわせみの意味を考えた後に、自分の書き込みを見直し、やまなしの意味について考えさせ、対比的にとらえることができるようにする。

9 準備

学習の流れ図、ポートフォリオ、授業用資料、自己評価カード

10 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援	評価基準		資料
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○ 「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻灯で、作者は何を伝えたいのだろう。」という読みのめあてをつくって読みのめあてに対する答えを見付け、読み確かめの視点の一つめである五月の幻灯、十二月の幻灯に表現されている世界を読み取ってきたこと。</p> <p>○ 本時では残りの二つの視点について読み確かめること。</p>	<p>○ 掲示物やポートフォリオを使って、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○ 聴き合う必要感をもたせ、本時の学習のめあてをつかむことができるようにする。</p>	基準A	基準B	学習の流れ図
<p>本時のめあて：かにの兄弟にとってのかわせみ・やまなしの意味をとらえ、題名が「やまなし」になっていることとつないで、作者の伝えたかったことを読み確かめよう。</p>				
<p>2 かにの兄弟にとってのかわせみ・やまなしの意味を話し合う。</p> <p>(1) かわせみの意味について代表児童による提案を聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわせみが飛び込んできたときのかにの様子から意味をとらえている読み取り ・かわせみの様子を表した比喻表現から意味をとらえている読み取り <p>(2) かわせみと対比してやまなしの意味を考え、書き込みを見直す。</p> <p>(3) 全体で話し合い、かにの兄弟にとってのやまなしの意味を考える。</p> <p>3 題名が「やまなし」になっているわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成の工夫を手がかりに考える。 <p>4 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>(1) ポートフォリオを使って振り返り、自己評価カードを書く。</p>	<p>○ 板書から代表児童の読み取りの違いをとらえさせる。</p> <p>○ 文章全体が対比的に書かれていることを想起させ、かわせみが「死の恐怖を与えるもの」であるならば、やまなしはどう表現できるか考えさせる。</p> <p>○ かわせみの意味を考えたときに見出した、かにの様子から・かわせみの様子を表した比喻表現からという二つの見方を用いてやまなしの意味を裏付ける根拠を考えさせる。</p> <p>○ ポートフォリオを活用させる。</p>	<p>・自分がとらえたかにの兄弟にとってのかわせみの意味を友達に分かりやすく伝えたり、相手の読み取りをよく分かろうと進んで尋ねたりして、よさを見付けることができる。</p>	<p>・自分がとらえたかにの兄弟にとってのかわせみの意味を友達に伝えたり、相手の考えを尋ねたりして、違いに気付くことができる。</p>	ポートフォリオ 授業用資料
<p>基準Bに達しない子への支援</p>				
<p>・板書を工夫したり、聴き合いをする際の視点や聴き方が分かるような資料を用意したりして、聴き合い活動を進めることができるようにする。</p>				
<p><本時で目指す子どもの姿></p> <p>僕ははじめ、かにとつてのかわせみの意味を、かわせみが飛び込んできたときのかにの兄弟の様子だけで考えていたけど、〇〇さんの読み取りを聴いて、かわせみの様子を表した比喻表現からも分かることに気がきました。また、「死の恐怖を与えるもの」と対照的に考えて、やまなしはかにの兄弟にとって「生の喜びを与えるもの」だと分かりました。題名が「やまなし」になっているので、作者は「生の喜びを与えるもの」にこだわりがあって、自分もそんな存在でありたいと思っていたのだと考えました。</p>		<p>・作者が伝えたかったことをとらえ、読み方とつないでまとめている。</p>	<p>・自分の読み取りに足りないものを付け加えている。</p>	自己評価カード
<p>(2) 本時に読み取ったことをもとにして、もう一度読みのめあてに戻り、作者が伝えたかったことを書きまとめることを確かめる。</p>		<p>基準Bに達しない子への支援</p> <p>・板書を使って説明したり、ポートフォリオでこれまでの学習を振り返ったりしながら、自分の読み取りを深めていくことができるようにする。</p>		

区研修テーマについて

区研修テーマ：学ぶ力の育成を図る授業改善の実践研究

<「学ぶ力」とは>

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の考える力
- 学習意欲

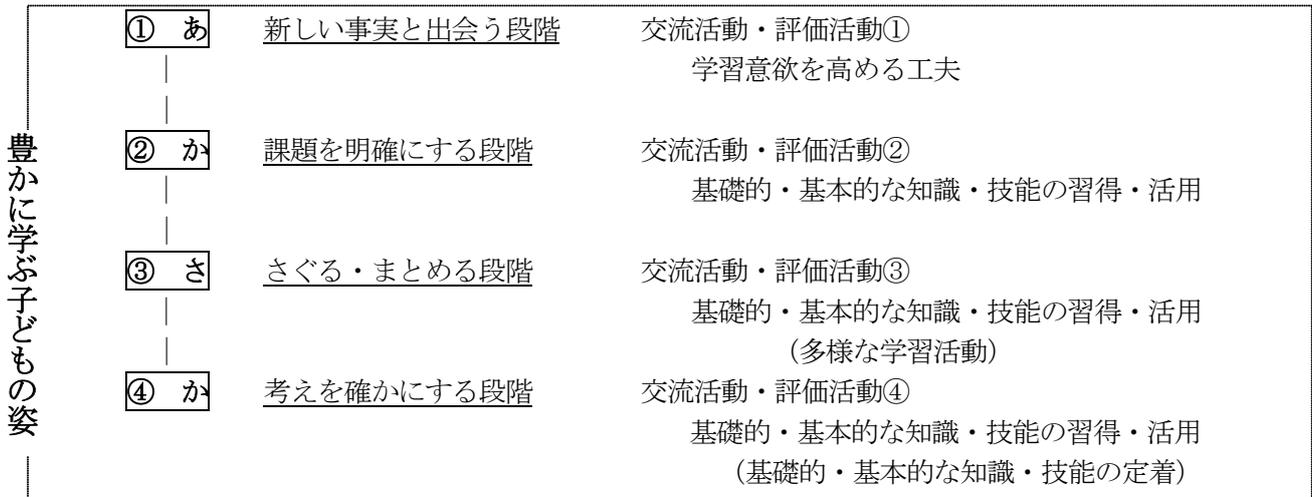
「学ぶ力」が身に付いた姿とは…

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用し、多面的な見方・考え方をしたり、公正に判断したりして、自分の考えをもつことができる子ども
- 学習の見通しを立て、必要な情報や資料を集めたり、分析したり、表現したりして、課題を解決する方法や学び方を身に付けることができる子ども
- 学習に対して期待感を持ち、学ぶ喜びや考える楽しさを味わい、自信をもって意欲的に学ぶことができる子ども

<本校で考える『学ぶ力』の育成』とは>

基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用を重視し、聴き合い活動を中心とした交流活動やポートフォリオを中心とした評価活動の中で知識・技能の習得・活用を図ることを充実させ、自らの課題を解決するために必要な考える力を育てていくことである。

本校では、次に示す「あかさか学習」という学習過程を取り入れ、国語科・社会科だけでなく他教科でも広く定着させることで、考える力の育成に取り組んでいる。



<国語科における『学ぶ力』の育成』とは>

読み方の習得・活用を通して、

- ・身に付けた読み方を使うよさを味わいながらことばの意味やはたらきを理解し、それを踏まえて自分の解釈をつくること
- ・主人公の立場になって考えたり、作者の伝えたかったことや見方・考え方をとらえたりして、自分を振り返ることができること

と考える。

<授業改善の実践について>

学ぶ力の育成を図るために、次のような授業改善を行う。

- ・ 聴き合い活動，ポートフォリオ評価を授業の中に位置付ける。(本校の研究テーマより)
- ・ 板書を使ったまとめと1時間の中で考えを書く活動を取り入れる。(「授業改善のてびき」より)
- ・ 言語活動の充実を図り，言葉を大切に学習を行う。(「新しい福岡の教育計画」より)